

令和3年度京都府立盲学校第2回学校運営協議会

日 時 令和3年11月12日(金) 10時00分～12時10分
場 所 京都府立盲学校花ノ坊校地 多目的教室
出 欠 出席委員8名、欠席委員1名

(1) 開会挨拶 (会長)

(2) 授業動画視聴 (報告事項の中で視聴)

(3) 協議

①傍聴規程について (副校長)

事務局原案を基に協議していただき、一部を修正後、一同拍手をもって承認されました。承認された傍聴規程については、[こちら](#)を御覧ください。

なお、当日は2名の方が傍聴されました。

②令和3年度京都府立盲学校図書館蔵書数等状況 (令和2年度末時点) について (図書館司書)

花ノ坊校地、大徳寺校地の蔵書数、生徒の図書館利用の状況について、報告しました。蔵書数の詳細は、[こちら](#)を御覧ください。

各委員には、本のリクエストの傾向や放課後の過ごし方、読書指導の取組、図書係が制作した「紹介ラジオ」の反応、ネットを活用した電子書籍の購入予定等について、関心を寄せていただきました。

③学部間連携について (幼小中学部担当総括主事)

重複障害学級の中学部と高等部の合同授業 (作業学習、音楽、体育) の取組と、準ずる教育課程における小中高の連携 (小学部の教科担任制) 等について、現状と課題を報告しました。

各委員からは、中高合同の作業学習を中心に、作業で出来上がったメモ帳の活用、販売活動、地域との連携、コミュニケーションの成果、今後の課題等について、質問や意見をいただきました。

【主な意見 (各委員)】

・学部間連携について、人数が少ない中でどうやって集団を確保していくか難しい課題なんだろうと思い、聞かせていただいた。本校でも、学部の中で完結してしまい、小中高が同じ施設の中にも難しい。普段の委員会活動や朝の挨拶運動など、授業以外のところで触れ合えるような機会を作っている。作業学習では、例えば、中学部の子どもたちが作ったものを高等部が引き継いで使っていくなどの工夫をして、連携の場を作っている。

・京都市立も、府立も、支援学校は販売活動をしているので、取り扱いは難しいがクリアできる話であり、販売活動等についても検討して欲しい。

④ICTを利活用した教育活動について (視覚支援センター担当総括主事)

教職員向けのタブレット端末研修、京都府内の弱視学級との交流 (小学部)、京都府以外の盲

学校との交流（各学部）、家庭とのリモートの取組（幼稚部）、両校地による文化祭りリモート開催、各教科等の学習の場面等について、動画を視聴していただきながら報告しました。

その後、「視覚に障害のある幼児児童生徒の学びの伴走者としての盲学校」（豊かな学びを支えるために、ICTを積極的に利活用した教育活動のあり方について）というテーマで熟議していただきました。

各委員からは、受講者が多かった研修、オンライン以外の交流、今後のICTを使った交流の可能性、生徒のICT機器の習熟度、ICT機器普及に伴う今後の点字指導の考え方等について、質問や意見をいただき、充実した協議となりました。

【主な意見（各委員）】

- ・児童生徒については、一定、盲学校として全体的に連携があり、いろいろな行事や発達についての支援に役立っているという話であったが、学部間のそれぞれの教員の中での連携のあり方、あるいは今回のICTの問題もそうであるし、こういったことがもう少しメリットとして、もっと密に取り組みされる必要があると感じた。
- ・音声アプリの使用については、当事者として利用している同窓会などの協力を得ながら、是非、開かれた研修という名目も含め、積極的に同窓会との取組の企画も考えていただきたい。
- ・ICTは、本当に急速な勢いで変わっていている。対面、リモート、それぞれがうまくかみ合って、良い交流や共同学習が実施できたらいいと思う。
- ・全校児童生徒にタブレット端末が行き渡り、その指導ができるよう先生方を4班に分けて研修する等、心強い限りではあるが、先生方には点字も得意となっていただきたい。

⑤その他

委員から、保護者の声として、視覚障害教育の専門性や教師の適性、学校のスピードある対応等について、切実な御意見と期待を聞かせていただき、その期待に応える教育の内容、充実をより深めていくことが必要であることが確認されました。

（4）音楽科3年生徒による公開リハーサル（独唱）

11月13日（土）に行われるヘレン・ケラー記念音楽コンクールへ出場する音楽科3年生の公開リハーサルを見学していただきました。

（5）閉会挨拶（校長）